

不正防止の虎の巻

セキュリティ指南書

第15回

中野耕平

株式会社A・P総研
代表取締役、P総研
Kouhei Nakano

刑務所視察中にアラームが点灯！
一体何が起きた？そしてどうなる！

アメリカセキュリティ視察ツアー第三弾!!

前回は横道にそれまくり、9・11とボストンマラソン爆破事件について書かせてもらった。今回は本題に戻って書いていく。「斬耕平が斬る」

アラーム音が鳴り響く！・・

所内を視察中、突然アラーム音が鳴り響き、赤色灯がグルグルと回り始めた。

フランクは私達に「こっちへ！」とせき立てる様に走り出し、通路と通路の中心になる広間のようなところへ連れて行った。そこに行くまでに囚人達とすれ違ったが、他の監視員が銃口を突きつけ、「壁に向かって両手上げて立て！」と叫んでいる。「こりゃあ、本当にクーデターが起きちまつたぜ！」我々全員が畳八畳程（たとえが日本の？）の広場に集められた。

「小田さん、一体何が起きたのでしょうか？」

「わかりませんが、フランクは動かない様にと言ってます」

フランクは銃を構え、この広場へ通じる三本の通路をそれぞれ監視した。

何分経ったのだろう。本当は2〜3分程度だったのかも知れないが、我々にはその10倍くらいに感じた。その時フランクに連絡が入った。

「皆さん、もう安全です。警備員の持っている緊急連絡用アラームの誤発報でした」

「何だよそんな事か〜」

原因が分かった途端、気が

抜けて行く。しかし、彼達に微塵も誤作動かもしれないと言う動きは見られなかった。改めて言えば、常に厳戒態勢を敷くと言う事を徹底された素晴らしい動きだった。



「フランクさっきは焦ったぜ!」「ああ、俺もどうなるかと心配したよ」と言っているのかも・・

牢獄&食堂・・

カメラの持ち込みを許されたとは言え、内部の撮影は禁止されているので、残念だが牢獄や食堂の写真は無い。

牢獄でリラックスしていた連中も、我々を見ると凄惨な形相となった。

特に小田氏がガーディアン（以下G.A.）の格好をしているので、凄まじいブーイングが飛び交った。それを見たフランクからの提案で、小田氏はベレー帽と赤のジャンパーをカバンの中に押し込んだ。

食堂では何班かに分かれて食事をしていた。皆でワイワイと賑やかなものだ。その中に私は入って行った。

「こいつらどんなもん食ってんだ？」てなもんです。

横に行きテーブルの上を見た。豆の煮たようなスープとパンだった。ふと囚人と目が合うと、凄まじく睨んでいた。

ボビーオロゴンが目を剥き

出しにした、まるでそんな感じだ。囚人の8割は黒人だ。「おいおい、そんなに脱むなよ」と軽く笑いながら、「ねえ小田さん」と後ろを振り返ると、そこには誰もいない。「え〜、嘘〜!」

入り口近くには皆は固まっていた。

先程まで平気で囚人達に近づいていたのに、誰もついて来ないのを知った瞬間、血の気が引く思いだった。

目の前のボビーオロゴンは、まだ目を剥き出しにして睨んでいる。心臓バクバクがばれない様に「ふふふ、じゃあな」と不適当な笑みを浮かべながら後ずさりして去った。

しかしボビーどころか、囁も小錦もハルクもホーガンまでも睨んでるし!!(汗)

やっと皆のところまで戻った。

「なっなんで誰もついて来ないんだよ？」

「だって、こんな怖いところに入っちゃいけないでしょ。中野さんが入って行くからビツクリして見てたんです」と主催者のK氏。

「よく行くよね、あんなところまで」とは、北海道のH社長。

最後に所長室にて・・



この道具は所内で見つかったもの、右上のデスマスクには思わず笑ってしまったが、歯ブラシの柄を削って尖らせたものや、面会に来た人間が脱獄の為に手渡した刃物等が並んでいるのは凄まじいリアル。今では面会室に入ると箱が置かれており、そこにはこう書かれている。

「あなたが間違っここに持ち込んだものをこの中に入れて下さい。入れないとあなたがこの刑務所に入る事になる」

その箱は透明で中が見えるのだが、笑う程一杯入っている。多くは細い金属上のもの。



女性所長と皆でパチリ。

彼女はヒスパニック系で、非常に勇気と知性を兼ね備えた方だった。我々の質問的確にテキパキと答えて頂いた事が印象深い。

さて、貴重な初体験の刑務所訪問だったがこれで終わりだ。

今回は悪の街NYCが、どうやって安全な街へ変貌を遂げたのか、斬らして頂こう。



毎日の様に行われている水難訓練。

拘置所&刑務所・・

拘置所はコンクリートで出来た一人一部屋だが、刑務所となるとテントで出来た体育館のようなところで、皆が一緒に寝泊まりをしている。

水難訓練・・

向かいのラガーディア空港との間にイーストリバーが流れている。水難訓練は行き届き、食事は事欠かないが、外で暮らすより居心地が良いから、出獄しても直に舞戻ってくる奴が少なくないとの事。

金属探知機は使っている。最初見たときは、処刑の電気椅子かと思った。拘置所に入っている囚人が裁判で一旦拘置所を出て戻ったとき、金属製品を持ち込んでいないかを確認する為、椅子に座らせチェックする。



金属探知機の椅子に座って苦しい小田氏。

鎮圧する為の武器・・

彼達が先程のアラーム事件の時、あれだけ真剣だった事



睡眠力入銃、手投げ弾。一発で100万人を4分間眠らせる事が出来る。



なかの こうへい
1957年高知県出身。大手OA機器販売メーカー・大手建設会社などの勤務経験の後、パチンコ業界に入る。その後、三十年以上にわたり、パチンコ業界の全てを研究しつつ、各遊技業協同組合でも不正防止講演会に講師として参加するなど、不正防止の知識を広げるべく活動を行っている。



記事に関するお問い合わせはA・P総研まで Tel.03-3202-0971